

学生時代から好きな言葉は「努力」と「継続」

——遠藤さんは 8 歳でサッカーと出会い、中学高校時代もサッカー部に所属。どんな選手でしたか？

【遠藤】ズバリ、冴えない選手です（笑）。補欠か試合に出られるギリギリのところにいるような……。ただ負けず嫌いな部分があり、コツコツとやるタイプだったので、練習は真面目にやっていました。

——日が暮れても、ひたすらボールを蹴る“遠藤少年”の画が浮かびます（笑）。

【遠藤】昔から「努力」「継続」という言葉が好きなんです。努力して継続すれば、何らかの結果が得られるので。精神的にちょっと弱気になったときでも、努力を続けていれば、それが自分の大きな支えになってくれます。その考えは、40 代になった今も変わらないですね。

薬科大学に合格した 18 歳のとき、バイク事故により右脚の太ももから下を失う大怪我を負った遠藤さん。しばらくはサッカーを観ることも避けてきたそうですが、あるとき、ご家族が見つけた「アンプティサッカー」の記事をきっかけに、再び“サッカーボールを蹴る人生”が始まります。

「日本代表選手に！」と発信して得た力

——「アンプティサッカー」の体験会では、衝撃を受けたそうですね。

【遠藤】過去にリハビリで経験していたサッカーと違い、アンプティサッカーはクラッチ（医療用の松葉づえ）を使い腕で支えるので、ボールをしっかり蹴ることができたんです。義足を外した解放感もあり、「これ、昔やってたサッカーだ！」と。そこから一気にのめりこみました。

——私も動画を拝見し、アグレッシブさに驚かされました。そして遠藤さん、なんと 5 ヶ月後には大会に出場されますよね。スピード感が凄いです。

【遠藤】「エントリーしておいたよ」とチームの代表に言われて、私もビックリ（笑）。でも、目標があったことで自身を奮い立たせることができたので、とにかく必死で練習しました。

——同大会でチームは見事優勝！ 試合後のインタビューで口にした言葉が力になったとか？

【遠藤】「今後の目標は？」と聞かれ、思わず「日本代表選手になりたい」と答えてしまったんです。すぐに後悔しましたが「もう、やるしかない」と。

——2018 年と 2022 年には、日本代表選手として目標を現実のものにします。精神的にも肉体的にも相当な力が必要だったと思いますが、パワーの源となったのは？

【遠藤】実はアンプティサッカーのことを知ってから、半年間は動けずにいたんです。体験会への参加を勧められても、あと一歩が踏み出せなかった。それでも、声をかけ続けてくれた家族や周囲の期待に応えなければと動いたら、そこには素晴らしい景色が待っていました。その後は、常に目標を掲げてきたことが、私自身を突き動かしてくれたように思います。あとは、努力してそれを継続すればいい。そうすると、安心して大きな力が湧いてくるんです。

——

一歩踏み出すことへの勇気。そして、踏み出したことにより大きく変わった人生。遠藤さんは、一つひとつ丁寧に優しく話してくださいました。しかし、日本代表という目標を達成した後も、新たな壁や苦悩が待っていたそうです。こちらのインタビュー記事は、LTR のホームページ（以下 QR コードより）にてご覧ください。（取材・文／小林 真由美）



クラッチを巧みに操りながら、ダイナミックなプレーを展開

まめの木薬局
の HP はコチラ
から→→



さらに詳しい
記事が読める
ハマ街ビト番
外編はコチラ
から→→

